WebEdge 3.8.2J インストール・ガイド

マニュアル・バージョン3.8.2

2004年 5月



目次

1. WebEdge 3.8.2 のインストール	1
1.1 必要とされるシステム	1
1.1.1 ハードウェア	1
1.1.2 ソフトウェア	1
1.1.3 必要とされるプラウザ	1
1.1.4 必要な設定情報	1
1.2 WebEdge のバックアップ	1
2. WebEdge3.8.2 のインストール方法	2
2.1 Windows 2000, Windows Server 2003 Standard/Enterprise	2
3. WebEdge と Post.Office の連携について	4
3.1 Post.Office との連携	4
3.2 連携方法	4
3.2.1. Post.Office 側の設定	4
3.2.2. WebEdge 側の設定	5
4. WebEdge の Web インタフェース	6
4.1 管理者インタフェースへのアクセス方法	6
4.2 ユーザインタフェースへのアクセス方法	6
5 WebEdge サーバの起動と停止	6
5.1 起動方法	6
5.2 停止方法	6
6 WebEdge サーバをアンインストールする方法	6

1. WebEdge 3.8.2 のインストール

1.1 必要とされるシステム

1.1.1 ハードウェア

WebEdge を稼動させるために必要な仕様は以下のとおりです。

🕐 メモリ:最小512 MB、10,000 ユーザ当たり1GB 推奨

- ディスク領域:10,000 ユーザ当たり4GB 推奨

1.1.2 ソフトウェア

Webedgeを稼動させるために必要なプラットフォームとアプリケーションを表1、表2に示します。

プラットフォーム	オペレーティングシステム	必要なパッチ
Sun	Solaris 2.6, 8	
Linux	RedHat 7.2, 7.3	
Microsoft Windows	2000 Server,	Service Pack 2以降
	Server 2003 Standard/Enterprise	
Macintosh	Mac OS X 10.2	

表1. 必要なプラットフォーム

バージョン
3.x
1.4.1
Linux の場合は、Linux カーネルv 2.2.12 およびglibc
v2.1.2-11 以降が動作するプラットフォーム

表2. 必要なパッチ

1.1.3 必要とされるプラウザ

Internet Explorer 5.5 SP2以降のご利用を推奨します。管理者インタフェースにアクセスするには、JavaScript、cookie、 およびフレームをサポートしているブラウザが必要です。

1.1.4 必要な設定情報

WebEdge をインストールする際は、次の情報が必要になります。

- ・ 使用するPost.OfficeサーバのFQDN(Fully Qualified Domain Name:ホスト名+ドメイン名)
- ユーザログインと管理者ログインにアクセスするためのWebEdgeのサーバポート番号(ユーザ/管理者インタフ
- ェースは、Web によってアクセスをするので、この情報が必要とされます)
- WebEdgeの管理者パスワード

<u>1.2 WebEdge のバックアップ</u>

WebEdgeのバックアップは、WebEdgeがインストールされているディレクトリ(WebEdgeディレクトリ)をバックアップコ ピーします。デフォルト値でインストールされたのであれば、次の箇所になっています。

Windows ¥Program Files¥WebEdge ディレクトリ

UNIX/Linux/Mac OS /usr/swcm/WebEdge ディレクトリ

!ご注意!

すでに古いバージョンのWebEdge(Post.Office WebMail EditionのWebEdge 3.6, Post.Office Advanced Editionの WebEdge 3.8.x)をご利用になっている方で、次の情報を変更されている場合は、

- WebEdgeの管理画面でデフォルト設定値を変更している
- ユーザ画面等のテンプレートをカスタマイズしている
- WebEdge 3.8.xにてIMAPを利用している

必ずバックアップを行って下さい。WebEdgeインストーラは、アップデートインストールでも既存の設定情報、 テンプレート情報の有無に関係なく上書きしてしまいます。(コンフィグレーションファイル、カスタマイ ズされたテンプレートファイルが削除されてしまいます)

尚、WebEdgeの利用者が設定していた次の情報については、アップデートインストールの場合でもデータは引き継がれます。

・ アドレス帳

オプション設定情報

2. WebEdge3.8.2 のインストール方法

2.1 Windows 2000, Windows Server 2003 Standard/Enterprise

WebEdge3.8.2のインストール手順を以下に示します。

!ご注意!

古いバージョン(Post.Office WebMail EditionのWebEdge3.6, Post.Office Advanced EditionのWebEdge3.8.x)をアップ デートインストールする場合は、WebEdgeディレクトリ(デフォルトでは、C:¥Program Files¥WebEdge)の<u>バックアップ</u> <u>コピーを必ず行ってください。</u>

!ご注意!

通常、Windows 2000 Serverでは、Windows標準のWebサービスとして、IIS (Internet Information Services)や World Wide Web Publishing Service (以後WWW Publishing Service)が稼働しており、80番ポートを使用し ています。(管理ツール インターネットサービスマネージャやサービスにて確認ができます) IISやWWW Publishing ServiceとWebEdgeを併用して運用される場合は、WWW Publishing Serviceのポート番 号を80番以外に変更するか、WebEdgeのインストールの「6.Port番号 / ホスト名設定画面」にて、80番以外のポ

0. WebEdgeの停止(アップデートインストールの場合)

ート番号を設定してください。

アップデートインストールを開始する前に、動作中のWebEdgeシステムを停止する必要があります。 [プログラム]メニューの [WebEdge]から [WebEdge Stop]を選択してください。



図1. WebEdge 3.x の停止

WebEdgeの停止後、WebEdgeディレクトリのバックアップを行います。

1. インストーラの起動

「Administrator」でWindowsにログイン後、インストーラを起動します。インストーラ・ファイルの 「webedge38x-yyyymmdd-hhmm.exe」をダブルクリックしてください。



2. Welcome

"Welcome "画面が表示されます。 "Next "ボタンをクリックしてください。

3. WebEdge Software License Agreement

"WebEdge Software License Agreement"画面が表示されます。"I Accept"ボタンをクリックしてください。

4. Choose Destination Location

WebEdgeをインストールするボリュームおよびディレクトリを設定します。WebEdgeのインストール先ディレクトリ (WebEdgeディレクトリ)がデフォルトの設定でよければ、"Next"ボタンをクリックしてください。

5. Select Program Manager Group デフォルトの設定でよければ、"Next"ボタンをクリックしてください。 6. Port番号 / ホスト名設定画面

WebEdgeのサーバポート番号(Web Server Port)および管理ポート番号(Administrator Port)を設定します。現在の設 定情報が表示されていますが、ポート番号の変更がなければそのままにしておき、「Host Name」の箇所にはF.Q.D.N(Fully Qualified Domain Name:ホスト名+ドメイン名 例:server.domain.co.jp)の形式で、WebEdgeを稼動するホスト名を 設定し、"Next"ボタンをクリックしてください。

7. 管理者パスワード設定画面 管理用のパスワードを設定します。パスワードを入力後、"Next"ボタンをクリックしてください。

8. Start Copying Files ダイアログ 設定された情報を確認後、"Next"ボタンをクリックしてください。データのコピーが開始されます。

9. Install Done ダイアログ インストールが正常に終了しました。"Done"ボタンをクリックしてください。 (「WebEdgeをすぐに起動する」、「管理者Webインタフェースを表示させる」のチェックボックスはそのままで終了させ ます。WebEdgeが正常に起動しているか確認できます)

10. 古いWebEdgeをアップデートインストールされた場合 (mobility.cfgファイル) 現在のWebEdgeディレクトリ (デフォルトではC:¥Program Files¥WebEdge)下のconfig_mdnディレクトリにある 「mobility.cfg」ファイル中の次の項目を、バックアップしたWebEdgeディレクトリ下のconfig_mdnディレクトリにある 「mobility.cfg」の内容と比較します。(mobility.cfgファイルはWebEdgeのコンフィグレーションファイルになります)

MSG_STORE_SERVER SMTPHOST

もし異なっていた場合は、エディタ等を利用して、バックアップされた「mobility.cfg」の項目の内容を、現在のWebEdge ディレクトリ下にある「mobility.cfg」ファイルの該当項目に書き写します。 この作業を行う前にWebEdgeが稼働している場合は、再度WebEdgeを停止させてください。

その他の設定値につきましては、お手数ではございますがWebEdgeを起動後に管理者Webインタフェース画面にて、再度設 定をやり直してください。

11. 古いWebEdgeをアップデートインストールされた場合 (mdnrez.propertiesファイル) 現在のWebEdgeディレクトリ(デフォルトではC:¥Program Files¥WebEdge¥config_mdn¥lang¥ja_JP)下のresourcesディレ クトリにある「mdnrez.properties」ファイル中の次の項目を、バックアップしたWebEdge¥config_mdn¥lang¥ja_JPディレ クトリ下のresourcesディレクトリにある「mdnrez.properties」の内容と比較します。 その際、次の項目については、今回のアップデートにて変更されている項目ですので、値を変更せずにそのままにしてお いてください。

<u>アップデート以前の値(バックアップされたデータ)</u>

HTTPEncoding=shift_jis SMTPSubjectEncoding=auto SMTPTextPartEncoding=auto

<u>今回のアップデート後の値(現在設定されている値::この値にしておく)</u>

HTTPEncoding=MS932 SMTPSubjectEncoding=B SMTPTextPartEncoding=7bit

その他の異なっていた項目については、エディタ等を利用して、バックアップされた「mdnrez.properties」の項目の内 容を、現在のWebEdgeディレクトリ下にある「mdnrez.properties」ファイルの該当項目に書き写します。 この作業を行う前にWebEdgeが稼働している場合は、再度WebEdgeを停止させてください。

!ご注意!

【Post.Office Advanced EditionのWebEdge 3.8.xからアップデートされた場合の追加事項】 WebEdgeをIMAPにて利用されていたお客様(管理者Webインタフェースにて[メール/DB]リンク [WebEdge設定]画面 にある「デフォルトメールボックスプロトコル」をIMAPにしていた場合)は、設定がデフォルト値のPOPに戻ってしまっ ているので、管理者Webインタフェースの「デフォルトメールボックスプロトコル」をIMAPに再設定してください。

3. WebEdge と Post.Office の連携について

<u>3.1 Post.Office との連携</u>

InterMail Post.Office WebMail Edition 3.6 日本語版、InterMail Post.Office Advanced Edition 3.8 日本語版をご利用に なっている方は、Post.Office と WebEdge を連携させることができます。Post.Office 上に登録されたすべてのアカウン トユーザとそのメールボックスを連携させることで、WebEdge を Web メールシステムとしてご利用になることが可能に なります。

3.2 連携方法

Post.Office WebEdge 間の連携は、LDAP プロトコルを利用してユーザ情報の共有を行っています。 これは、Post.Office 側と WebEdge 側の設定が必要です。

3.2.1. Post.Office 側の設定

Post.Office の管理者画面にて、「システムコンフィグレーション」 「LDAP サービスの設定」で行います。 「LDAP アカウントサービス」フォームは次のようになっています。

Postmaster: LDAP Service Configuration - M	internet Explorer
ファイル(E) 編集(E) 表示(M) お気に入り(A)	ILD 1/1710
LDAPアカウン 4 度る LDAPサービスを のはい こいいえ LDAP 識別名: cn=person,dc=my-ho LDAP ボート番号 10389	サービス 速度 Uセット にする:
125	速信 リセット
0C) 1993-2002. (Improved & Distributed by	eve Systems Inc. All Rights Reserved. Technologies Corporation. All Rights Reserved.
10 ページが表示されました	● 1ンターネット

図 3. LDAP アカウントサービスフォーム

1. LDAPサービスを有効にする

「はい」を選択します。

2. LDAP 識別名

LDAP ディレクトリはツリー構造のデータベースになっています。ツリー構造データの階層格納構造を特定するための 識別子が識別名です。Post.Office と連携する際は、この識別名を使ってユーザ情報を共有します。このフィールドには、 以下を設定してください。

cn=person,dc=my-host,dc=jp

3. LDAP ポート番号

LDAP で通信する際に使用するポート番号を入力します。このフィールドには、以下を設定してください。

10389

!ご注意!

Post.Office と WebEdge 間で連携を行う場合は、必ず上で指定した LDAP ポート番号による通信が可能になっていなければいけません。(他のサービスで利用している、ポートを閉鎖している等はチェックしておいてください)

3.2.2. WebEdge 側の設定

WebEdgeディレクトリ下のconfig_mdnディレクトリにある「mobility.cfg」ファイルの設定項目を変更します。ファイル は、デフォルト値でインストールされたのであれば次の箇所にあります。(ディレクトリやファイルの読み書き許可が、 無い場合は管理者権限で作業します)

Windows¥Program Files¥WebEdge¥config_mdn ディレクトリUNIX/Linux/Mac OS/usr/swcm/WebEdge/config_mdn ディレクトリ

変更する項目は、次のとおりです。

- 1. MSG_STORE_SERVER=(Post.Officeシステムのホスト名または IP アドレス) Post.Office サーバを指定します。例: MSG_STORE_SERVER=mail.opentech.co.jp
- 2. SMTPHOST=(Post.Officeシステムのホスト名または IP アドレス) Post.Office サーバを指定します。例: SMTPHOST=mail.opentech.co.jp
- 3. PO_AUTH_REQUIRED=true "true"を設定します。
- 4.GET_PO_USERINFO=true "true"を設定します。
- 5. PO_AUTH_PORT=10389 "10389"を設定します。
- 6. PO_DIRECTORY=cn=person,dc=my-host,dc=jp "cn=person,dc=my-host,dc=jp"を設定します。

「Mobility.cfg」ファイルを変更した場合は、WebEdgeの再起動が必要です。

4. WebEdge の Web インタフェース

4.1 管理者インタフェースへのアクセス方法

管理者Webインタフェースにアクセスすることで、WebEdgeのコンフィグレーションを行うことができます。

Windows環境で管理者Webインタフェースにアクセスする手順:

- [スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > Administer WebEdge に進みます。管理者ログインページ が表示されます。ページが表示されない場合は、Webブラウザから、http://your_server_name:指定したポート 番号/ にアクセスします。
- 2. インストール時に設定した管理者パスワードを入力し、認証をクリックします。

4.2 ユーザインタフェースへのアクセス方法

Windows環境でユーザインタフェースにアクセスする手順:

- [スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > WebEdge User Login に進みます。管理者ログインページ が表示されます。このページが表示されない場合は、Webブラウザから、http://your_server_name:指定したポ ート番号/ にアクセスします。
- 2. 次の情報を入力します。
 - ・メールサーバのアカウントID (POP/IMAPアカウントID 等)
 - ・パスワード
 - ・サーバ名(空白の場合はデフォルトメールサーバ、localhostの場合はWebEdgeがインストールされたマシン 上のメールサーバです)
- 3. 認証をクリックします。

5 WebEdge サーバの起動と停止

5.1 起動方法

Windows環境でWebEdge サーバを起動する手順:

・[スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > WebEdge Start に進みます。

5.2 停止方法

- サーバを停止すると、次の状態になります。
 - ・プロセスは、ただちに終了します。
 - ・サーバと接続しているWeb ブラウザは、ただちに切断されます。
 - ・データベースは、サーバの再起動時にインデックスを再構築します。

!ご注意!

WebEdgeサーバをシャットダウンする場合は、管理者Webインタフェースの管理者メニューにある[シャットダウン]ページに移っ てシャットダウンをする方法が望ましい終了手順です。管理者オンラインヘルプの「WebEdge サーバのシャットダウン」を参照し てください。

Windows環境でWebEdgeサーバを停止する手順1:

・管理者Webインタフェースの管理者メニューにある[シャットダウン]ページに移ってシャットダウンを実行する。

Windows環境でWebEdgeサーバを停止する手順2:

・[スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > WebEdge Stopに進みます。

6 WebEdge サーバをアンインストールする方法

Windows環境でWebEdge をアンインストールする手順:

・[スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > UnInstall WebEdge に進みます。

!ご注意!

アンインストールを行うとWebEdgeディレクトリごと全てを削除します。

[商標]

UNIXは、The Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。 Pentiumは、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Windows および Internet Explorer は、Microsoft Corporationの米国およびその他の 国における登録商標です。

Sun、Solaris、Java およびすべての Java 関連の商標は、Sun Microsystems, Inc.の 米国およびその他の国における登録商標です。

すべてのSPARC商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している 同社の米国およびその他の国における登録商標です。

Linuxの名称は、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標です。

RedHat は、RedHat Software, Inc の登録商標です。

Apple、Mac OS X は、Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標 です。

本ドキュメントに記載されているその他の製品、ブランド、および会社名は、 それぞれの所有者の商標、登録商標、または職標である場合があります。

(C) 1993-2002, Openwave Systems Inc. All Rights Reserved.

(C) 2002 Open Technologies Corporation. All Rights Reserved.

Improved & Distributed by Open Technologies Corporation.